

令和6年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月5日実施)	総合評価（3月25日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程学習指導	<p>①普通科は、外国語教育・理数教育を重点化し、探究的な学びの推進、教科等横断的な学びの推進により教育課程の深化を図る。</p> <p>②専門学科は、専門力の向上と教育課程の共通化をいかした学力向上をめざす。</p> <p>③外国につながりのある生徒への支援体制を強化する。</p>	<p>①②STEAM 教育研究推進校としての取組に基づき、教科等横断的な学びや探究的な学びの深化を図り、全学科の生徒の能力を伸長させる教育を推進する。</p> <p>②教育課程の共通化をいかし、専門学科の生徒の学びの深化を図る。</p> <p>③外国につながりのある生徒をはじめとした多様な生徒に対する組織的な支援の充実を図る。</p>	<p>①②授業研究期間を設け、学校全体として課題や情報を共有し授業改善を行うとともに、教科等横断的な学習プログラムの研究開発を行う。</p> <p>①②専門学科の専門科目や普通科の「総合的な探究の時間」等を含めた教科・科目における探究的な学びを推進し、課題の発見および根拠を持って解決方法を立案することを通して生徒の自己実現を目指す。</p> <p>①②英語の外部検定試験の大学における利用方法について検証し、周知を図ることにより受検を推奨する。</p> <p>③多文化共生教育推進チームを中心に、情報共有や研修を行うとともに、多文化教育コーディネーターとの連携・協力により放課後日本語教室等の必要な支援を企画・運営する。</p> <p>③CEMLA スクール主管校として、運営協議会参加各校と連携しながら CEMLA スクールの活性化に努める。</p>	<p>①生徒による授業評価の項目に教科等横断的な学習プログラムにより、他の教科で学んだことが、別の学習の場面で生かされることがあったか。「肯定的な回答」の回答率が60%以上となったか。</p> <p>②生徒による授業評価の項目3(深い学び)、項目6(項目3と関連の深い項目)、項目7(より高次の学びの構築)における肯定的な回答の割合が、前年度より向上したか。</p> <p>①②英語外部検定試験の合格者数が前年度よりも増加したか。</p> <p>③各年次および学校全体での情報共有を前後期各2回以上実施することができたか。</p> <p>③多文化共生教育推進チームで業務分担し、多文化教育コーディネーターと協働して必要な支援を円滑かつ組織的に進めることができたか。</p> <p>③CEMLA スクール主幹校として、在県生徒を担当する教員を中心に運営に当たった。また、ボランティアとして本校弥栄アクト部を中心で交流会でゲームを開催するなど楽しみながら学習することができた。</p>	<p>①第2回目の生徒による授業評価で、他の教科で学んだことが、別の学習の場面で生かされることがあったか。「肯定的な回答」の回答率が83%となった。</p> <p>②第2回目の生徒による授業評価の項目3、6、7で、各教科前年度と同程度の評価の割合が多くなった。</p> <p>①②英語外部検定試験の単位認定の申請数は、前年度比1.5倍となった。</p> <p>③多文化教育コーディネーターや学習支援員と連携して生徒情報の共有や補習、授業への支援を行うことができた。</p> <p>①②英語外部検定試験の大規模における利用方法を含め、生徒に周知し、合格者を増やしていく。</p> <p>③CEMLA スクールは計画通り42回開講することができた。また、ボランティアとして本校弥栄アクト部を中心で交流会でゲームを開催するなど楽しみながら学習することができた。</p>	<p>①②STEAM 教育研究推進校として、探究的な学びや教科等横断的な学びによる深い学びを実現し、生徒の自己肯定感の向上を目指して欲しい。</p> <p>②CEMLA スクール主幹校として、神奈川県が誇る外国语につながりのある生徒の支援組織として、県教委の支援を得つつ引き続き推進して欲しい。</p>	<p>①教科等横断的な授業改善を実施するためには、各教科ごとの分析だけでは、細かな授業改善ができないため、各科目での実施結果もあわせて詳細に分析する。</p> <p>①②授業評価は肯定的な意見が増加したので、独自にアンケートや振り返りなどを実施し、より詳細に授業改善の方策を考えていく。</p> <p>②英語外部検定試験の受験者は増加したので、大学入学試験への利用を推奨していく。</p>	<p>①各科目での実施結果をさらに分析し、授業改善に取り組み、生徒の学習に繋げよう改善を図る。</p> <p>②STEAM 教育研究推進校の指定継続を踏まえ、本校における持続的な教育活動として位置付ける。</p> <p>②英語外部検定試験の大学における利用方法について検証し、周知を図ることにより、受検を推奨する。</p> <p>③外国につながりのある生徒をはじめ、多様な生徒に対する組織的な支援を継続する。</p>	
2	生徒指導・支援	<p>①生徒が起点となる主体的活動の経験値を重ね、活力と発信力のある生徒を育成する。</p> <p>②サポート体制の強化により教育相談体制の充実を図る。</p> <p>③安全な交通社会の一員として交通安全教育の推進を図る。</p>	<p>①生徒が主体的に取り組む探究的な視点を持った活動を支援し、他者理解によるコミュニケーション力の向上、心身の健全な育成をめざす。</p> <p>②機動性の高い教育相談体制の充実を図り、事案の早期発見と早期対応をめざす。</p> <p>③日常的な交通安全指導を含め、地域とともに交通安全教育をさらに推進し、生徒の安心・安全な学校生活を支援する。</p>	<p>①生徒が主体となった実行委員会を充実させ、各行事の企画・運営の体制を構築し支援する。また、「SAGM Synergy」の理念をWE FESに拡充し、内容の精選に促進する。</p> <p>①部活動が教育活動の一環であることを再確認し、学校全体として指導体制の確立を図るとともに、普通科生徒の高加入率と専門学科生徒との学科融合した活発な活動をめざす。</p> <p>②SC・SSW・コーディネーターを中心とした連携を密にし、教育相談体制をさらに充実させる。</p> <p>③交通安全講話や春秋の交通安全デー、自転車ヘルメット着用、自転車点検等の交通安全教育活動を充実させる。</p>	<p>①生徒が主体となった実行委員会や各行事では、探究的な視点や学科融合型の相乗効果に進展がみられたか。また「SAGM Synergy」の理念をWE FESに拡充・精選ができたか。</p> <p>①全体の部活動加入率が90%以上、普通科85%以上が維持できているか。また、学科融合した活発な活動により各部の実績はあげられたか。部活ドリーム大賞等は受賞できたか。</p> <p>②コーディネーターを中心に年次、担任、家庭、SC、SSW、ケース会議等を通して緊密な情報共有に努め、早期発見・早期対応を目標とした組織的な教育相談を図れたか。</p> <p>③交通安全に関する各啓発活動をより充実することができたか。</p>	<p>①生徒が主体となった実行委員会や各行事は、教員の支援が必要だった場面も多々あったが、学科融合型の相乗効果には進展がみられた。また「SAGM Synergy」の理念をWE FESに拡充・精選することには余地がある。</p> <p>①部活動加入率の維持はできている。部活ドリーム大賞はスポーツ賞、文化賞、個人各賞を受賞した。</p> <p>②必要に応じてケース会議を開き、各年次や管理職と早期の情報共有ができた。</p> <p>③交通安全講話、交通安全デー、交通安全週間では充実した活動ができた。</p>	<p>①行事の見直しによりWE FESでの「SAGM Synergy」の理念をさらに拡充・精選していくこと、また発信力や円滑に運営する方策が必要である。</p> <p>①部活動活性化のため、加入率を維持していく。</p> <p>②不登校気味の生徒が複数いるが、教育相談コーディネーターを中心に担任や各担当と情報共有を図りながら支援・サポートをした。</p> <p>③事故件数は昨年と比較すると5件の減少になった。注意喚起、日々の啓発の成果が上がったが、1年次の事故件数が増えているので、来年度も継続的な指導をおこなう。</p>	<p>①WE FESや部活動で学科融合型の相乗効果が得られた。今後も「SAGM Synergy」の理念を融合する教育活動を推進できるのは本校の最大の強みであり、令和7年度入試の高倍率で証明されていると考える。</p> <p>②SC・SSWのニーズが増えている。組織的な情報共有や緊密な連携を図って対処していく。</p> <p>③4学科設置ゆえの多様な個性を持つ生徒への教育相談のサポート体制を期待する。</p> <p>④交通安全教育は家庭と学校の連携が必須であるが、引き続き、地域・家庭・学校・行政が協働して推進したい。</p>	<p>①「SAGM Synergy」の理念をWE FESに拡充し、内容の精選を促進する。</p> <p>②部活動が教育活動の一環であることを再確認し、学校全体として指導体制の確立を図るとともに、普通科生徒と専門科生徒が融合した活発な活動をめざす。</p> <p>②各年次の教育相談CO、年次団とがSC・SSWと連携を図り、組織的な教育相談体制を確立する。</p> <p>③地域と連携した交通安全指導・教育を推進する。</p>	

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月5日実施)	総合評価(3月25日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3 進路指導・支援	①生徒一人ひとりの才能を伸ばす個別最適な学びの推進により、国公立・難関私立大学への進学をめざす。 ②困難な状況にも屈せず立ち向かうたくましい弥栄人を育成し、卒業後の姿を自ら描けるキャリア教育の充実を図る。	①変化する進路環境と生徒の学習意識や進路意識の情報を探求するとともに、個々の生徒の対応したきめ細やかな指導を図る。 ②探究活動を軸としたキャリア教育の充実を図る。	①「進路ガイドブック」「進路だより」及び各種説明会等を通じて、生徒、保護者へ進路環境の変化を周知し、学習のあり方等を考えさせる。 ①長期休業等における補習・講習を充実させる。 ②「理数探究」「学術探究」「総合的な探究の時間」の探究活動を通して、自らの進路を考察する機会を増やす。	①進路実現に向けて、生徒自身が自分に合った試験種を的確に選択し行動する支援ができたか。 ①補習・講習の実施講座数と講座の内容を充実することができたか。 ②探究活動と「やえいノート」の活用が効果的なものとなり、1年次「自己発見」、2年次「自己探究」、3年次「自己実現」を図ることができたか。	①総合型選抜入試・学校推薦型選抜入試の年内入試についてはチャレンジ型の出願をしている者が増えたが、安易な選択をしている生徒も存在している現状。 ②夏季講習については、講座数は昨年同様21講座であるが、石膏デッサン講座や英検対策講座を設けたため、参加者は170名ほど増加した。 ③「やえいノート」の活用と効果についてはSTEAM研究チームと検討が今後必要。	①総合型選抜入試を受験する生徒に準備不足の者が多いため、受験に向けた計画の検討をする機会を増やす必要がある。 ②各教科、学科の協力により参加者は増やせたが、開校講座数の増加が課題となる。 ③美術科では「やえいノート」が有効利用されているが、他の学科では活用方法等に課題がある。	①生徒の学習意識や進路意識を醸成し、多様化する受験方式に対応できる計画的な進路指導を推進して欲しい。 ②探究活動と「やえいノート」の活用について、美術科での有効活用を端緒として、3学科の取組を期待したい。	①②多様化した進路希望に対応するため、年次団、学科及び各担任との綿密な連携が重要となる。 ③「やえいノート」を探究的な学びに活用できるよう各学科での利用法を確立させる。	
4 地域等との協働	①地域の小中学校・特別支援学校・大学や博物館等との機動的な連携を図り生徒の自己有用感につなげる。 ②地域との協働により地域貢献意識の向上を図り地域に信頼される学校づくりをめざす。	①地域の様々な機関と連携し、本校生徒が地域と積極的に関わることで視野を広げ、自己有用感を育む。 ②地域の学校等と協働により、開かれた学校づくりをさらに推進する。また、本校の教育活動をさらに周知するため、学校ホームページの充実を図り、本校の魅力と特色についてアピールする。また、学校行事等の情報発信など、幅広く広報活動の充実を図る。	①中学生が本校の教育活動に触れる機会を増やすために各部活動が近隣との連携を強化する。 また、地域ボランティアとしての関わりを増やすよう努める。 ①地域の公民館や特別支援学校、美術大学等との連携やボランティア活動により地域貢献活動に取り組み、生徒の自己有用感を醸成することができたか。 ②本校の教育活動の周知を行い、本校の魅力と特色をアピールするために、行事の報告など適宜掲載し、ホームページの充実を図る。のために、記事作成と情報収集体制の強化に努める。	①部活動等を通して近隣の中学校との連携を深め、特に中学生に対して、本校での教育活動の体験を実施することができたか。 ②各学科やSIG、部活動と連携を密にして、HP上での行事予定の発信やポスター掲載などを行っていく。	①陸上部による走り方教室やバレー部のバレーボール教室を通して近隣の中学校との連携を深め、特に中学生に対して、本校での教育活動の体験を実施することができたか。 ②本校の魅力と特色を発信するために各学科の発表など、行事ごとにホームページの更新を行った。 ②吹奏楽部、ダンス部、美術部などを中心に、部活動などのメディアへの出演による学校の紹介により学校広報活動を積極的に展開した。 ②メディア等による学校紹介の機会をとらえ、学校広報活動を積極的に展開することができたか。	②ホームページ更新を迅速に適切な時期に行えるような体制の構築と、更新実施の呼びかけを行っていく。 ②各学科やSIG、部活動と連携を密にして、HP上での行事予定の発信やポスター掲載などを行っていく。	①多様な個性の多忙な生徒を地域連携活動に参加してもらうための方策を期待したい。 ②中学生、保護者が必ず見る部活動・同好会のホームページの更新が滞っている部活動・同好会があり、更新して欲しい。	①学科や、部活動・同好会の継続的かつ大きな尽力により多数の地域連携活動が実施できた。 ②他のグループとの連携を深め、また連絡や情報の提供、支援を行いホームページ更新の頻度をあげ、部活動・同好会にも徹底する。	
5 学校管理 学校運営	①広い敷地を有効活用できる環境の整備を進める。 ②防災教育・安全教育の組織的推進を図る。 ③事故・不祥事防止を徹底する。 ④働き方改革を進め、教職員の資質向上に努める。	①効果的な教育活動及び防災の観点から施設・設備の整備を図るとともに校内美化を推進する。 ②本校周辺の防災上の特徴をとらえ、実践的な防災対策を進める。 ③計画的な研修を実施し、不祥事防止会議を活用して成績処理等における不祥事の防止を徹底する。また、帰属意識を高めるよう同僚性のある風通しの良い職場づくりに取り組む。 ④タイムマネジメントの視点と目指すべき教職員像の観点から教職員の働き方改革を推進する。	①不要物品の廃棄、定期的な清掃により校内の美化を徹底する。 ①教育活動に必要な環境整備を行う。 ②災害時に実効性のある避難ができるよう防災訓練の方法を検討する。 ③計画的な研修を実施し、不祥事防止会議を活用して成績処理等における不祥事の防止を徹底する。また、帰属意識を高めるよう同僚性のある風通しの良い職場づくりに取り組む。 ④教職員の働き方改革をさらに推進し、組織的な学校運営と校務の効率化を更に進め、長時間勤務を是正する。	①規定の手続きに従って確實に不要物品の廃棄を行い、校内美化を徹底する。 ①大掃除及び日常の清掃を徹底することができたか。 ①校内の教育環境整備として無線LANアクセスポイントを整備することができたか。 ②生徒及び教職員の防災や安全に対する意識を高める防災訓練を計画・実施することができたか。 ③より効果の高い職員研修を実施し、不祥事の未然防止に取り組むことができたか。 ④教職員の働き方改革をさらに推進し、長時間労働者の割合が前年度と比較して減少させることができたか。	①不要物品は規定に従い適宜廃棄した。日常の清掃に加え手薄になりがちな場所は大掃除の際に清掃を徹底した。 ①校内の教育環境整備として、インターネット回線の増強、電子黒板の設置を行った。 ②防災訓練として、生徒は地域ごとの集団下校グループでの参集やDIG訓練を行った。職員は校内の安全確認をし、危険個所の改善を図った。 ③より効果の高い職員研修を実施し、不祥事の未然防止に取り組むことができたか。 ④教職員会議などにおいて啓発資料を用いた職員研修を定期的に行い、教職員の意識向上を図った。 ④業務精選により、前年度と比較して「月平均時間外在勤務時間」が減少した。	①校内美化については、不要物品の処分はかなり進んだが、今後も各清掃担当を中心確認し、整理していく。 ②防災訓練は毎年同じ内容で実施しているが、緊急時の対応ができるよう、予告しない訓練も検討する。DIG訓練は年次単位で取り組み、全生徒が1回は体験できるようにする。 ③若手職員を中心に不祥事の防止をめざしたより効果的な職員研修を継続する。 ④これまで以上に業務精選、見直しを取組み、よりある職場環境を目指し、教職員自らの人間性や創造性を高め、資質向上に努める。	①「時計塔が復活しました」の生徒の歓喜をホームページで拝見し、大変喜ばしい。教育予算が逼迫する中で、引き続き教育環境(施設・設備)の整備を推進して欲しい。 ②教職員が多様化する中で、事故・不祥事の防止に取り組んで欲しい。 ③若手職員を中心に不祥事の防止をめざしたより効果的な職員研修を継続する。 ④これまで以上に業務精選、見直しを取組み、よりある職場環境を目指し、教職員自らの人間性や創造性を高め、資質向上に努める。	①校内の不要物品廃棄、老朽物品の更新を積極的に進め、教育環境の充実を推進する。また、地域の防災力を高めるため、学校と地域との連携について、具体的に取組む。 ②不祥事防止会議の機能をいかし、不祥事防止に向け若手を中心に取組む。 ④ICTの利活用により、職員の負担軽減を図り、組織的な学校運営と校務の効率化を推進する。	